

《県営ほ場整備事業》

宮古島市間那津地区

地区の概要

本地区は、宮古島市(旧平良市)の北西部に位置し、さとうきび中心の農業地域であった。耕地は狭小、不整形で散在しており、農道、排水路等も未整備であった。農業経営の安定化を図ることを目的とし、平成7年に県営ほ場整備事業「間那津地区」として区画整理、排水路等の整備に着手した。

本地区は、地下ダムによる水源確保を進めている国営かんがい排水事業や県営事業によるかんがい排水施設の整備とあわせて、安定的な農業が展開されている。



事業概要

- | | |
|---------|---|
| 1) 受益面積 | 74ha |
| 2) 主要工事 | 区画整理 A=74.0ha
排水路 L=12.9km
農道 L= 9.5km |
| 3) 総事業費 | 19億6,700万円 |
| 4) 工期 | 平成7～13年度 |
| 6) 関連事業 | 国営かんがい排水事業
宮古地区(平成12年度完了)
県営かんがい排水事業
間那津地区(平成16年度完了) |

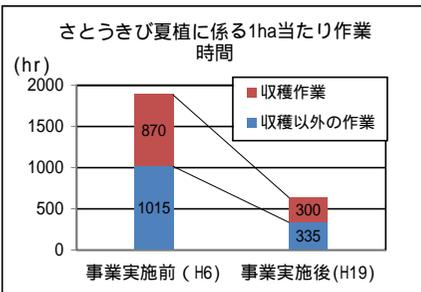
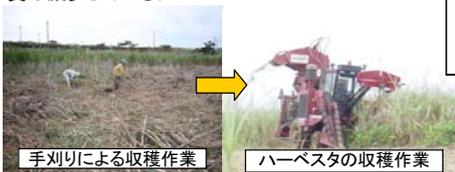


事業実施の効果

労働時間の減少

本地区の主要作物であるさとうきびの労働時間を見ると、事業実施前の1,885時間から事業実施後には635時間へと約66%減少しており、農作業の効率が大幅に向上した。

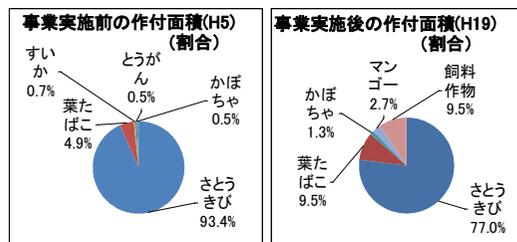
また、農地の区画が整形されたことにより、通作時間の短縮、機械作業の効率化が進み、営農経費は減少している。



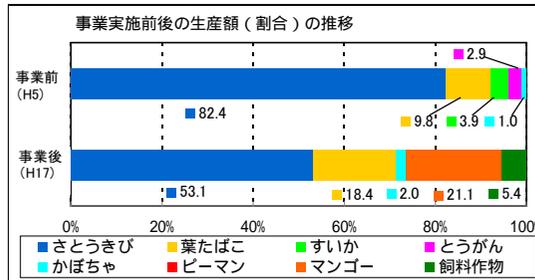
作物の転換

本地区の全作付面積を事業実施前後で比較したところ、平成5年の61haから、事業実施後の平成19年では74haと13ha増加している。

作付面積の割合の比較では、主要作物であるさとうきびは93.4%から77%に減少し、葉たばこやかぼちゃなど高収益作物が6.6%から23%と約3.5倍に増加し、作物の転換が図られている。その中にはマンゴーが2.7%、飼料作物が9.5%新たな作物として含まれている。



生産額を作物別にみると、さとうきびは大幅に減少しているものの、葉たばこ、かぼちゃは約2倍と大幅に増加した。また、事業実施後の作付割合で12.2%のマンゴーと飼料作物が、生産額の割合では全体の26.5%を占めるなど、より収益性の高い作物への転換が図られている。



専業農家人口の増

事業実施後は、作付面積が2割増加し、農業の機械化が進むなど効率的な営農が展開され、葉たばこやマンゴー、飼料作物など収益性の高い作物の導入が進むなど、農業生産性が向上している。

本地区周辺を含む狩俣集落の総農家数は、事業着工時の平成7年度の117戸から事業完了後の平成17年度には92戸に減少しているが、専業農家については39戸から46戸へと増加している。また、農業就業人口については、事業着工時平成7年度151人から、事業完了後の平成17年度には210人と39%も増加している。引き続き担い手育成や地域ブランドの確立など地域の魅力を発揮する農業を展開していく取り組みが求められる。

